表 2

	事業所	従業員数	出荷額
加茂市	九九六	八、三七〇人	七四九・九億円
吉田町	五六〇	五、一八六	五〇三・五
巻　町	二〇七	二、八七七	二〇八・三
黒埼町	八七	一、六九一	二三七・二
黒川村	二二	五二五	二四・六
当　市	一〇八	二、二二〇	一四九・六

場産業を育成のため木工団地を造成したり、その他の工場誘致に努力している。西蒲、黒埼町でも新潟市から、吉田町、巻町は三条市、燕市からの工場進出が盛んである。特に吉田町は町で土地造成して誘致策を講じている。各市町村の人口と比較して当市は工場誘致が遅れているようだ。当市が総合計画の目標年に市民分配所得を県水準に達したいとするならば、先ず工場の誘致が必要と思う。

工場の誘致は働く者には職場を与え、市民所得を向上させ、更に関連産業を助成し、市には財政収入をもたらし、町も活気づく。まさに一石三鳥、四鳥の策である。それには地価高騰と公害防止問題の解決が前提になろう。

三、農業の振興を

日本は食糧すら自給出来ない国になった。これは国家として望ましい姿ではない。国はもっと食糧政策を真剣に考える必要がある。当市は農業を中心として発達して来た。今後も農村型都市として発達してゆくべきである。しかし、それにはこれからは米作中心農業から脱皮しなければならない。今年の「農業白書」でも「わが国は今後も米の消費は減少を続け、更に米の作付面積は減少を続け、更に米の消費と言っている。次に県の作物統計（五十五年一蕃産統計（五十三年）によると上表のとおりで、当市はかなり農業経営が多角化しているように思う。しかし、もっと近郊農業地として野菜、果樹、花木、養豚、養鶏などに力を入れ、遠地遠作、田畑転換、施設園芸などを時代に即応した農業経営を考えるべきである。それがためには優れた情報集中機関と、しっかりした指導体制が必要であり、機能的な農家組合組織が望ましい。また、市及び農業協同組合ももっと農業の基盤整備に力を入れ、中核的農家の育成など安定した農業経営へと育成援助が望まれる。

表 3

	作付面積（ha）						農業粗収入と畜産収入の比較		
	米・麦	いも・豆類	果樹	野菜	園芸類	合計	農業粗生産額	畜産生産額	比率
加茂市	1,545(78.0)%	73(3.7)%	169(8.5)%	162(8.2)%	31(1.6)%	1,980(100)%	34.3億円	3.1億円	9.3%
吉田町	1,845(90.9)	42(2.0)	3(0.1)	118(5.8)	22(1.2)	2,030(100)	33.2	3.0	9.0
巻　町	2,739(72.1)	60(1.6)	127(3.3)	657(17.3)	217(5.7)	3,800(100)	63.6	3.6	5.7
黒埼町	1,375(81.8)	59(3.5)	4(0.2)	242(14.5)	0(　0)	1,680(100)	29.1	4.2	14.7
黒川村	913(79.4)	66(5.7)	5(0.4)	70(6.1)	96(8.4)	1,150(100)	15.1	1.7	11.2
当　市	3,915(81.7)	149(3.1)	104(2.2)	382(18.0)	240(5.0)	4,790(100)	83.9	6.7	8.0

表 4

	商店数	従業員数	年間販売額
加茂市	九二三	二、九七七人	三二七・七億円
巻　町	七三六	二、八六九	三〇〇・〇
吉田町	六六一	二、一五三	三三七・五
黒埼町	四〇九	一、九二六	八五二・四
当　市	七五一	二、四二五	二六五・四

当市ではかつて木場の梨が特産物として県内外に出荷されていた。今後も適地、適作による市の特産物も考えるなど、これからの農業を先取り産業の一つであり「商品生産」の時代である。

四、商業の近代化

最近クルマ時代とともに商圏が広域化し、一方当市は新潟市と新発田市にはさまれてショッピング都市として発展しにくい。しかし当市の消費人口の増加と一般の消費水準の向上を考える時、商店街、商店経営の近代化が強く望まれる。消費者に当市の中心的商店街葛塚本町についての印象を聞いてみると、先ず道路が狭い、駐車場が少ない、旧式の店舗で魅力がない、商品陳列に新鮮味がない、そして市街地と周辺消費地との道路網もよくないなどが返ってくると岐栗とショッピングの中心地としたいとしている。その予算約三〇億円（国庫補助一四億、起債七億、一般財源九億）だそうだが、まさに時期到来、速やかに事業を進めるべきだ。

しかし、この完成には長年月を要する。そこでさしづめ現在の商店街のあり方をどうするか真剣に考えなければならない。

それには先ず市商工会などが中心となり、総合的な市場調整と商店街診断を行うと共に、商店経営者の研修と協力により店舗配置、店舗アピール、商品陳列など商店街、商店経営の近代化を図り、また販売員の商品知識、接客技術など資質向上のための継続的な販売員教育制度が望まれる。そして当市で楽しみながらショッピング出来る、新鮮で魅力ある商店街、商店への改善が必要である。

五、道路網の整備

産業、経済、文化の発展は先ず道路網の発達からであり、現代社会では道路はまさしく人体にたとえて血管である。これが機能的で生き生きしていて始めて産業も社会も活気づくわけである。

先きの「本町区画整理事業計画」にもある市の中心商店街、公共施設集中地から関方、長浦、木崎そして水原、月岡、松浜へと放射状に道路網の整備を望みたい。特に中心地と早通団地、月岡、新潟東工業港、新潟競馬場、新潟空港へのバス路線の実現を希望する。また早通駅に昇格す

る必要がある。

将来は関方、長浦、月岡、新発田、新潟東工業港、木崎、松浜、新潟と環状バス路線がほしい。また、新潟市内ならびに北陸高速自動車道へスムーズな乗り入れのためには阿賀野川に橋をもう一基建設し、一方通行帯にしてはどうだろう。また新潟東工業港と国道四十九号線を結ぶ道路の整備も急務だ。

更に言うならば国、県、係市町村と連けいして豊栄、新潟、吉田、燕、三条、新津、新発田と新潟駅を中心とした国鉄環状線の構想はどうであろう。二十一世紀は日本海時代とも言われる。その時は新潟市が中核となろう。その意味でもこの国鉄環状線の実現を考えたい。

六、教育環境の整備

当市は町内で人口の過疎化と過密化が同時に発生している。行政面ではその施策の極めて困難な都市である。それが小中学校児童生徒の数にも現われ、年々児童生徒の減少校がある一方過密校をかかえている。当分学校建築の問題が続くであろう。それにも拘わらず当市の小中学校は年々整備され、永久建築率もよくなっていることは喜ばしい。しかし、義務教育以外の幼児教育、高等教育はどうであろうか。

次に県内二十市の幼稚園、高校、大学の配置状況及び進学率（五十五年）を学校基本調査などで見ると表の通りである。

当市は幼児教育は年々充実し、このほかに保育園は一七あり、今後は乳児保育と幼保一体の教育施策が必要であろう。

一方高校では巻、中条、六日町などと町でも高校が数校あるのに、当市は豊栄高校と新発田農高本崎分校、全日制、定時制各一校のみで両校の収容生徒は三五五人である。五十三年度当市中学卒業生五二五人の約六〇％、三二一人は市外高校へ進学を余儀なくされた。しかも当市の中学卒業生は年々増加し、六十一年度には七二二人となり、いまのままでは毎年三〇〇～四〇〇人は市外高校進学となり、これは生徒、父母にとって大きな問題である。

表 5

	大学		高校		幼稚園	
	公	私	公	私	公	私
新潟市	2	3	16	6	5	38
長岡市	1	1	8	2	2	16
三条市			4	5	1	7
柏崎市		1	5	1	1	4
新発田市			4	3	3	6
新津市			3	2		3
小千谷市			2	1		3
加茂市		1	2	1	1	3
十日町市			2	1		2
見附市			1	1		2
村上市			1	3		2
燕市			3	2	4	1
栃尾市			1	1		2
糸魚川市			2	1		
新井市			1	1	2	
五泉市			1	1	2	1
両津市			1	1		1
白根市			1	1		1
豊栄市			1	1		5

表 6

	高校	大学
全国平均	94.0%	32.0%
県平均	94.1	20.9
加茂市	95.1	27.6
吉田町	92.6	22.9
巻　町	92.9	20.8
黒埼町	93.4	19.6
当　市	91.5	12.0

幸い市でも高校誘致期成同盟が結成され動き出した。私は更に二校建設し、新発田市、水原町、新潟の進学熾を緩和する一方、当市は新潟学区へ進学出来る共通学区への道も開くべきだと思う。

また表5の通り、県内の大学は新潟、中越、上越地区に集中し、更に新潟市、南魚、大和町、西蒲、黒埼町にも建設の構想と聞く、阿賀北には高等教育機関は皆無である。ところが本県を始め当市やこの地域の大学進学率は非常に低い。かつての内野町の砂丘地に新潟大学が移転統合される。当市の砂丘地に「自由の殿堂」がそびえてもよいと思う。

次に、社会教育の振興につ

いてであるが、最近「働きすぎ日本人」と言われるが、これから週休二日制の普及とともに余暇善用の時代である。しかしそれがためにはそれなりの施設も必要である。国、県でもこのことを考え年々社会教育施設、国民宿舎、ユースホステル、ハイキングコース、国民体暇村などの建設に力を入れている。県内二十市のこれらの施設状態を県教育委員会刊行の「社会教育ガイドブック」から拾ってみたのが次の表7である。

これをみると当市はまだまだ不足のようだ。そこで、当市でも既に中央公民館、博物館などこれらの施設を省々と建設しつつあるが、更に、静かな環境の中に独立した図書

表 7

	老人福祉センター	老人いこい広場	公園	遊園地	児童公園	児童館	青少年キャンプ場	青少年ホーム	研修センター	国民宿舎	ユースホステル	ハイキングコースキャンプ場	スキー場	海水浴場	市営プール	相撲場	武道館	テニスコート	野球場	グランド	陸上競技場	体育館	図書館	公民館 ㊍ ㊐	福祉センター	公民館	郷土資料館	美術博物館	体育館	総合体育館	武道館	相撲場	市営プール	海水浴場	スキー場	キャンプ場	ハイキングコース	ユースホステル	国民宿舎	研修センター	青少年ホーム	児童館	児童公園	遊園地	公園	老人いこい広場	老人福祉センター
新潟市	2		1	18																			3	1	18																						
長岡市	2		1	20																			1	8																						
上越市	5		3	14																			1	8																						
三条市	2		4	5																			1	1																						
柏崎市	1		22	0																			1	1																						
新発田市			10	0																			1	1																						
新津市	1		1	0																			1	1																						
小千谷市	1		3	0																			1	1																						
加茂市			1	0																			1	1																						
十日町市	1		8	29																			1	1																						
見附市	1		1	6	0																		1	1																						
村上市	1		1	5	0																		1	1																						
燕市				5	0																		1	1																						
栃尾市	1		1	8																			1	1																						
糸魚川市	1		10	0																			1	1																						
新井市				12																			1	1																						
五泉市	1		4	0																			1	1																						
両津市	1		8	50																			1	1																						
白根市	1		10	2	1																		1	1																						
豊栄市			5	0																			2	2																						